

静かな夜と平和な空を返せ

横田・基地被害をなくす会 NEWS/No.70

横田基地公害訴訟原告団 NEWS/No.16

連絡先：〒196-0003 東京都昭島市松原町 4-10-24-100

E-mail：なくす会 yokota.nakusukai@gmail.com 原告団 yokota9th@yahoo.co.jp

Web サイト http://yokota-nakusukai.sakura.ne.jp/

発行：横田・基地被害をなくす会／横田基地公害訴訟原告団

※ NEWS は「横田・基地被害をなくす会」と「横田基地公害訴訟原告団」の合同発行です。

発行日：2026年2月9日

発行者：大沢豊／福本道夫

合同発行

この NEWS は、横田・基地被害をなくす会と横田基地公害訴訟原告団の合同発行です。

※住所や電話番号（連絡先）などの変更の際は、お知らせください。特に原告の方で住民票や戸籍の異動があった際は、公的書類（該当者の住民票や戸籍抄本など）を原告団、または、弁護団に送ってください。

● 第11回弁論 3/16(月)14時～

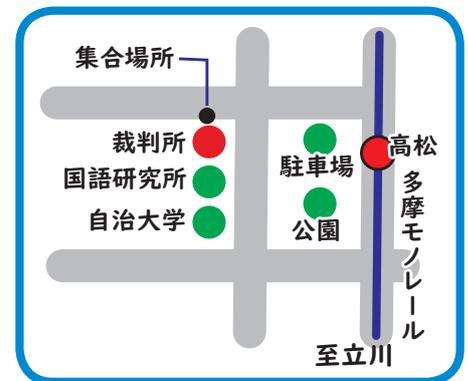
第11回弁論日程

3月16日(月)

- ①事前集会：13時15分～
東京地方裁判所立川支部 北側歩道
 - ②裁判：14時00分～
4階405号法廷
 - ③報告集会：裁判所北側歩道
- ◇所要時間（最寄りの駅から）
高松駅～裁判所：徒歩3～4分

今回の弁論では、弁護団から、米軍機の日米合意違反飛行（高度や時間帯など）、を主張するとともに、国が原告側主張に反論してきた「低周波音」「排ガス」「防音工事」「将来給付」への反論や「日米合意違反」等についての主張を行う予定です。

都合のつく方は傍聴においでください。原告となくす会会員は交通費補助500円を支給します。



昨年11月18日にパラシュート降下兵が羽村市民家に落下～11月20日にメインパラシュートが福生市熊川児童館に落下

米兵が使ったパラシュートとみられるものが住宅に引っかかっていた
= 2025年11月18日東京都羽村市川崎1丁目、読者提供。

左の写真と上の解説は、昨年11月19日の朝日新聞 Web のもの。

羽村の落下地点は青梅線に近い地域で、福生の落下地点は国道16号線に近い場所。どちらも一歩間違えれば重大事故につながるものだった。

(詳細は P.2 に掲載)

危険なパラシュート降下訓練が横田基地で行われている

(原告団 事務局)

昨年(2025年)11月に立て続けに起きたパラシュート降下訓練事故について経過をまとめました。

<羽村市の事故に関する経過>

◇11月18日:16時40分頃、横田基地外の羽村市神明台1丁目(青梅線羽村駅に近い線路に沿った西側地域の一角で横田基地滑走路から約2.5kmの位置)民家屋根にひっかる形(推定)でパラシュート降下兵が降着。後に、横田基地所属C-130Jを使った人員降下訓練時に、「米陸軍兵士が降下時に主降下傘が作動しなかったために予備降下傘を展開し、主降下傘を持ったまま着陸した」ことが判明。民家屋根の一部が破損し、兵士の怪我は、あったとしても軽傷程度。

◇11月19日:午前、北関東防衛局長が羽村市を訪問、市長に降着の説明と謝罪。羽村市は嚴重抗議を行う。

◇11月20日:*午前、横田基地司令官が羽村市を訪問、市長に基地外降着事故について説明。羽村市長は口頭で抗議し抗議文を手交。

*同日:米軍から北関東防衛局を通して情報提供「訓練手順や使用機材の徹底した点検を行い、安全性の確信が得られたため訓練を再開する。」

*同日:パラシュートの一部である誘導傘を羽村市神明台4丁目の歩道(横田基地西側住宅地区のすぐ西側地域)で発見。

◇11月21日:横田基地周辺市町連絡協議会(東京都と5市1町)、基地司令官と北関東防衛局長などに「再発防止策を講ずるまで同様の訓練は行わないこと」「速やかな情報提供を求めること」などを要請。

◇同日:瑞穂町、町長・町議会議員・基地対策委員長名で、基地司令官や北関東防衛局長等に訓練停止などを求める要請。

◇同日:青梅市、基地司令官や北関東防衛局長に、訓練の中止などを求める要請。

◇11月25日:あきる野市、基地司令官や北関東防衛局長に、訓練の中止などを求める要請。

<福生市の事故に関する経過>

(◇11月20日:夕方、米軍の主降下傘が福生市熊川児童館敷地内に落下。)

◇12月1日:熊川児童館屋上で職員が米軍のものと思われるものを発見し、福生市職員が回収後に北関東防衛局に連絡。

◇12月2日:北関東防衛局が熊川児童館屋上にあった「もの」を回収し米軍に確認したところ、以下の事実が判明。「11/20夕方に米軍兵士が空挺降下訓練中に主降

下傘が作動しなかったため、それを切り離した後に予備降下傘を使用して横田基地内に着地した。切り離れた主降下傘は熊川児童館敷地内に落下し、この日の夜に米兵が(無断で立ち入り)回収した。屋上で発見されたものは降下傘の一部・誘導傘だった。」北関東防衛局は、米軍に「適切な情報提供や安全管理の徹底など」を要請(日付不明)。

◇12月9日:横田基地周辺市町連絡協議会、基地司令官と北関東防衛局長・横田防衛事務所長に「再発防止策を講ずるまで同様の訓練は行わないこと」「速やかな情報提供」などを要請。

◇同日:福生市、基地司令官、外務大臣、防衛大臣、北関東防衛局長にパラシュート降下訓練の中止などを求めて抗議・要請。

◇同日:あきる野市、横田基地司令官にパラシュート降下訓練の中止などを求める要請。

◇12月10日:羽村市、在日米軍司令官、横田基地司令官宛に「人員降下訓練の中止」などを求める要請文を基地に持参。外務大臣、防衛大臣にも同内容を郵送。

◇12月11日:日の出町、横田基地司令官に「人員降下訓練の中止」などを求める要請。

◇12月19日:北関東防衛局、「米軍が、福生市内熊川児童館敷地内に許可なく立ち入り、主降下傘を回収した」ことを情報提供。

◇12月22日:横田基地周辺市町連絡協議会、基地司令官と北関東防衛局長・横田防衛事務所長に「再発防止策を講ずるまで同様の訓練は行わないこと」などを要請。

※パラシュートが近くの青梅線や国道16号に落下したら大惨事となる2次・3次災害が起きたと思います。

私たち原告団は、裁判の請求で、横田基地周辺でこのような危険な訓練を行わないように求めています。

過去に何度も起きていたこのような事故を踏まえて、さらに訴えの声を大きくしていきましょう。



福生市熊川児童館:都営住宅の一部を利用した施設で、国道16号から100mと離れていない。(福生市公式HPより)

一周辺自治体訪問と情報交換一

自治体は住民の立場に立った行政を！ 裁判にも生かせる情報を得るために…

年に1回は表敬訪問と情報交換をと計画していた課題、1年8か月ぶりに、昨12月に原告団と基地被害をなくす会の役員を中心に自治体議員の協力も得て周辺自治体11市町を訪問、裁判の現状と対策、裁判に関連する運動、オスプレイ配備、PFAS汚染、さらに11月のパラシュート降下訓練事故などの情報交換と要請行動を行いました。

前半は、12月15日にあきる野市、日野市、青梅市。16日に立川市と八王子市を訪問。立川市を除き横田基地周辺自治体5市1町連絡会には入っていないものの、オスプレイ横田配備（2018年）を前後して顕著になった訓練飛行空域の西側シフトにより、基地交付金等が無いにもかかわらず騒音被害が拡大し、住民からの苦情も増大しています。そこで、以前の原告団（第9次横田基地公害訴訟原告団）の後半から周辺自治体の対象を拡大しています。

訪問したあきる野市で1か所、日野市で2か所、原告の協力を得て従来の補償対象外の75Wコンター内外で騒音測定を実施し、現コンター図（騒音等音線）がいかに現状とあっていないかを立証すべくすでに昨年9月に2週間、今年2月に2週間予定、証拠採用を現実化するため業者に依頼、費用をかけて測定しています。定点で騒音測定を実施している自治体もありますが住民の苦情があり問題意識を持っていても実施できていない自治体にも苦情件数などと合わせて情報提供を求め騒音測定を実施すべきと要請しました。また、立川・八王子市に対しては多摩地区の中核市でもあり基地被害と住民苦情に前向きに対応してくれることを要望しました。

後半は、12月23日に福生市、瑞穂町、武蔵村山市、24日に昭島市、25日に日の出町、羽村市を訪問しました。5市1町の協議会加入自治体を中心に、オスプレイ訓練と低周波振動被害、PFAS汚染問題、パラシュート降下訓練事故問題等の情報提供、意見交換を行いました。

騒音被害、オスプレイ配備・訓練問題では、被害調査や騒音測定結果、住民の苦情報告などについての情報提供を求め、騒音レベルや危険性についての自治体の認識を聞き出しました。

11月18日、20日と相次いで横田基地上空で輸送機C-130からのパラシュート降下訓練での事故が相次ぎました（詳細はP.2）。2022年11月の横田基地所属のオスプレイ墜落死亡事故（屋久島沖）に次ぐ大きな衝撃でした。事故の情報提供、その後の自治体の対応、さらに対策なども聞き出しました。当事者自治体の羽村市、福生市は当然にも素早い対応をし、市長、議会などによる米軍、政府・防衛省・防衛局などに事態の早期情報公開と訓練中止の申し入れを行ってきているとの話。中でも、福生市熊川児童館へのパラシュート降下事故での「事故隠蔽（自

治体からの通報があつてから止む無く事故を認める）」と無断侵入によるパラシュート回収については、これまでの「信頼関係」を損なうものとして強く抗議してきたと説明を受けました。が、2018年から2020年にかけて相次いだ同様な事故当時の教訓が生かされているのか疑問が残りました。そもそも降下訓練は戦時を想定した訓練であり、民家が密集している横田基地周辺上空で継続して実施されていることに対する危機感が希薄で、今回のように一歩間違えれば大惨事につながりかねないことや沖縄嘉手納基地などで県や自治体が申し入れ一時的にしろ中止させてきたことを想起すべきです。日米地位協定の呪縛を断ち切らねばこうした事故は続発し、住民の危機感はぬぐい切れないことを自治体には一歩も二歩も踏み込んでもらいたいものです。中止申し入れを一時的に行えば済むものではなく、情報提供・公開を徹底させ、パラシュート降下訓練時や「欠陥機」CVオスプレイ飛行訓練時には、防災無線やJアラートで住民に周知するなど、自治体で出来る対策を検討し実施を強く求めました。パラシュート降下訓練事故に対する11自治体の対応は温度差があり、5市1町連絡会での横並び対応では住民の危機感や心配が伝わらないことも痛感しました。

PFAS汚染の対応についても、政府環境省や東京都の対応を超えることがないのが現状。「公害」の対応の教訓である、「影響や事態が顕在化してからでは遅い」ことから、住民に最も近い行政政府である自治体が、国に先んじた対策・対応を実施すべきことを求めました。

今回の周辺自治体との情報交換&要請行動は、いずれも1時間程度の場ではありましたが、パラシュート降下訓練事故の約1か月後であり、意味のある意見交換ができたと思います。しかし議会開催自治体も多く、日時の調整とコース取りも思うに任せず、都合5日間に及びました。それでも、新たに当該自治体の議員にも参加いただき幅を広げることができました。今後も年に一度はこうした場をセットし運動や裁判に生かすことができればと考えています。

原告団 事務局長 棟棠 浄



12/23 武蔵村山市との情報交換（左側手前から大沢・福本・秋山の各氏）。自治体担当者の顔は意図的に加工してあります。

今後の主な予定

- ▶ オスプレイ反対 Standing とリレートーク
…毎月1日 11時～12時に横田基地第2ゲート前で実施。次回は3/1, 4/1, 5/1…

- ▶ 3/8 (日) 13時30分～オスプレイ反対署名と
アピール行動：福生駅東口
- ▶ 3/16 (月) 14時～横田基地公害訴訟第11回弁論
…東京地裁立川支部 (405号法廷)
事前集会は13時15分～裁判所北側歩道
その後, 6/1, 9/14も同じ日程・場所で開催。

リレートーク

「うつぼ舟ガザへ」渾沌からの祈り

私は、横田基地から南東わずか300メートルほどの場所に居住する原告の一人であり、彫刻家です。日常的に境界線と軍事の気配を感じるこの場所で、私は鉄をたたき続けてきました。私にとって素材は言葉と同じですが、時に言葉を超え、一瞬で感情を伝播させる力を持つものだと信じています。

今回の作品「うつぼ舟ガザへ」が生まれた背景には、世界を覆う「渾沌 (こんとん)」への思索があります。中国神話における「渾沌」は、目鼻口のない調和した神でした。しかし、他者が良かれと顔に「七つの穴」をあけたことで、渾沌は死んでしまいます。本来混ざり合い、調和していたものに、無理やり道理や境界という「穴」をあける行為。それは、現代社会が抱える分断や悲劇の象徴のように思えてなりません。

いま私の心を最も激しくざわめかせているのは、ガザで続く大量虐殺 (ジェノサイド) です。食料供給は断たれ、飢えに苦しむ人々に銃口が向けられる。この惨状を救うべく出帆した支援船「マドリーン号」さえも公海上で拿捕されました。海という路までもが、暴力的な論理によって閉ざされているのです。

そんな中、地中海沿岸の人々は、ペットボトルに食料や粉ミルクを詰め、波に託してガザへ流しているといいます。一縷の望みにかけ、海に祈りを投じるその姿は、あまりに尊く、切ないものです。「うつぼ舟」とは、日本の漂流譚において、海の彼方から福や神をもたらす依代 (よりしろ) を指します。私は、この舟をガザへ向かう支援船団の一艘として、あるいは人々の祈りを運ぶペットボトルの一片として作りました。

私の舟は、実際には水に浮くことも、空腹を満たすこともできない無力な存在です。しかし、無理な穴をあけられ、生命力を失おうとしているこの世界において、それでも境界を越えて届くべき「幸」の

形を提示したい。この「うつぼ舟」が、閉ざされた海を越え、飢えと恐怖の中にいる人々へ届く精神の依代となることを願っています。

Free Palestine !

(この作品の木彫部は藤田靖正氏から拝借しています。)

(2025.7.19 ~ 11.24 / 鉢 & 田島征三 絵本と木の
実の美術館 新潟県十日町市)

中里繪魯洲 Rasen Studio



今回は、主に金属を素材にした作品を創られて
いる彫刻家の中里さんに原稿をお書きいただきま
した。※爆音カレンダーのタイトル部分や封筒の
オスプレイのイラストは中里さんによるものです。

下のQRコードを読み込んでいただければ、うつ
ぼ船の音の出る動画が楽しめます。

なお、文末の「依代」
(よりしろ)は、神霊
や精霊が宿るための対
象物や場所を意味して
います。

願わくばガザへ漂え
うつぼ舟 (M)



NEWS内容 (目次 = CONTENTS)

第11回弁論 3/16 (月) 14時～, 集合 13時15分…………… 1	周辺自治体訪問と情報交換…………… 3
危険なパラシュート降下訓練が横田基地で行われている…………… 2	今後の主な予定, リレートーク…………… 4